

祝祭性と防災

株式会社NTTファシリティーズ総合研究所

EHS&S研究センター 研究主任

坂巻 哲

世界には四季のある国が多く存在するが、私たち日本人ほど1年の間に移り行く春、夏、秋、冬の4つの季節を感じながら生活している民族はいないのではないだろうか。冬は霜が降り、雪に閉ざされる。寒さが和らぎ陽の光がまばゆくなると、徐々に草木が芽吹き始める。そして桜が咲き、満開となり、春の代表的なイベントである花見の時期を迎える。

花見は、桜の花を鑑賞し、春の訪れを寿ぐ日本古来の風習であり、余市川桜並木(北海道)、白石川堤一目千本桜(宮城県)、六郷土手の桜(東京都)、権現堂堤の桜(埼玉県)、河津桜(静岡県)など川に沿ってどこまでも続く桜並木は圧巻である。しかし、そもそもなぜ川沿いに桜並木は多いのであろうか。

防災の世界でよく知られる「土手の花見」の逸話がある。冬の川の土手(昔ながらの土の堤防)は、降霜や氷結によって傷み、緩んでしまう。そして春が過ぎ、梅雨の頃には、傷み緩んだ土手を増水した川の水が直撃し、土手の決壊を引き起こす可能性がある。これを防ぐために考えられたのが、「土手の花見」というイベントだと言われている。

梅雨の時期に入る前に、土手が増水に耐えられるように、しっかり土手を固めることが必要である。「土手の花見」によって大勢の人が集い、土手に陣取り、お酒を酌み交わし、ゆっくり歩くということで、冬場に緩んだ土がしっかりと踏み固められる。このように花見客は、単に花見を楽しんでいるだけではなく、いつの間にか土手の決壊防止に貢献している。更には大勢の人が集まることで、土手の亀裂など危険な箇所や補修を必要とする箇所を発見する機会が増えることも考えられている。

釜無川の信玄堤近くの甲斐市竜王には三社神社がある。ここでは毎年4月に甲府盆地を襲った大水害(825年頃)後に始まった水防祈願が起源とされる御幸祭が行われている。この御幸祭、通称「おみゆきさん」は、各社の神輿の行列が合流して、隊列を組んで竜王にある信玄堤の三社神社に向けて練り歩く。「おみゆきさん」での神輿の担ぎ手は、掛け声と足を揃え、大地を踏みしめるように足を動かす。それは、神輿の担ぎ手全員が同じ踏み足をすると神輿が進みやすいという理由のほかに、釜無川の土手を踏み固める意味もあると言われている。各社の神輿は、釜無川の信玄堤だけではなく、平等川や金川など要所要所の河原を経て、土手を踏み固めながら練り歩いている。

このように、大勢の人が楽しみながら、ごく自然に、防災活動に関わる「土手の花見」や「おみゆきさん」は、川の決壊を防ぐための工夫であり、古くから災害と共に生きる先人の知恵である。また、土手付近や甲府盆地などの地元関係者が、土手のメンテナンスに加わっていることで、地域住民が中核となった地域防災の向上に繋がっている。

これらの逸話にある踏み固めの有効性については定量的評価も難しい部分もあり、また現在では土手はコンクリート化され、人口が集中する地域ではスーパー堤防化も進んでいる。しかしながらここで注目すべきことは、「土手の花見」や「おみゆきさん」にある防災上の工夫が、川のメンテナンスという防災活動と、花見と祭りという別の活動(エンターテイメント・祝祭事)、しかも人々が進んで参加している活動とを巧みに重ね合わせている点と言われている。防災を社会的活動として最適化させるためには、「土手の花見」や「おみゆきさん」のように、防災を他活動と区別せず連携することが不可欠と言えよう。

これらの「土手の花見」の逸話や「おみゆきさん」の祝祭事は、明確な目的と意識を持ったある所作が、無意識のうちに別の目的を達成している。このことは、負担を感じることも、「楽しみ」の要素が加わると目的の達成が容易になるとの教えである。防災活動に限らず、企業や学校での活動を効果的に進める上でも「土手の花見」や「おみゆきさん」の発想は大きなヒントになるかもしれない。

近所や旅行先において散歩がてらに土手や河原を歩く、その一歩が防災に繋がり貢献していると思うと嬉しいものである。現在は、コロナ禍で日常生活に制約があるものの、春先には会社や学校の仲間や友人と「土手の花見」、そして春の陽気の中で子供との「土手のつくし探し」、夕暮れ時には家族との健康増進に向けた「土手のウォーキング」を楽しんでみてはどうだろうか。

(2020年12月14日 坂巻 哲)

※掲載された論文・コラムなどの著作権は株式会社NTTファシリティーズ総合研究所にあります。これらの情報を無断で複写・転載することを禁止いたします。また、論文・コラムなどの内容を根拠として、自社事業や研究・実験等へ適用・展開を行った場合の結果・影響に対しては、いかなる責任を負うものでもありません。

ご利用になりたい場合は、「お問合わせ」ページよりご連絡・ご相談ください。